

おはよう

から始まる 地域でつくる 子供の居場所

新規事業

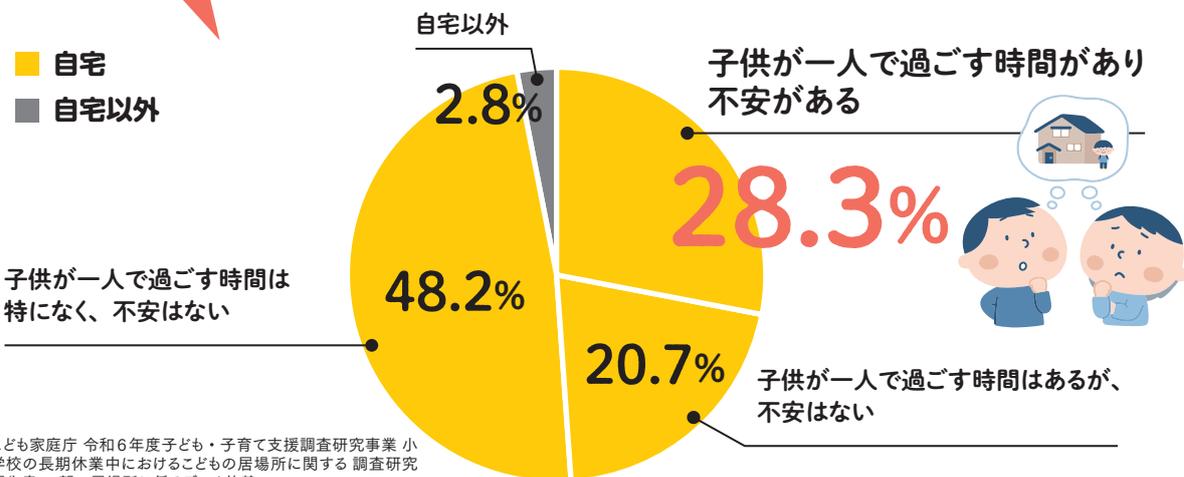
# 朝の子供の居場所

東京都では令和7年度から新規で、「朝の子供の居場所づくり」が始まりました。保護者の働き方の多様化や共働き家庭が増加していることにより、朝の時間帯に子供が安全に過ごす居場所がないことが課題となっています。

こども家庭庁の調査\*1によると、全国の共働き世帯の約28.3%が「子供が朝一人で過ごすことに不安がある」と回答しました。

特に小学校低学年の子供がいる家庭では、保護者が出勤した後に子供が一人で過

## 学校がある日の朝の主な居場所



\*1 こども家庭庁 令和6年度子ども・子育て支援調査研究事業 小学校の長期休業中におけるこどもの居場所に関する調査研究報告書～朝の居場所に係るデータ抜粋  
出典 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 令和7年3月

## 「居場所」とは

こども・若者が安心して過ごせる場所や時間、人との関係性のすべてを指し、物理的な空間だけでなく、遊び・体験活動・オンライン空間など多様な形態を含みます。

居場所かどうかは、本人が「居心地が良い」と感じるかどうかによって決まる、主観的な概念であるため、こども・若者自身が、どこで・どう過ごすかを自分で選び、決めることが大切です。居場所づくりには、彼らの主体性を尊重する姿勢が重要です。

参考：こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する指針(本文)」



## 都内における昨年度までの取組

都内では令和6年度末までに八王子市、三鷹市、武蔵野市で先行して実施されていました！

※昨年度、本誌でも掲載しています(No.153号)。



朝がちょっと、  
嬉しくなる。

# づくり

ごす登校時間までの見守りが必要と感じる保護者が多いことや、校門前で門が開くのを待っている子供たちの安全を心配する地域の声もあり、朝の居場所のニーズが高まっています。

今号の特集では、東京都が進める「朝の子供の居場所づくり」の支援を活用して始まった各区市の取組について、地域住民等の協力を得ながらどのように実施しているのかを紹介합니다!



## 事業の概要について 簡単にご紹介!

東京都は子供たちの学校が始まる前の朝の時間を過ごす安全・安心な居場所づくりの取組を行う区市町村を支援しています。本事業は東京都こども未来アクション2025「学校始業前の居場所」※2に位置付けられています。



対象者	すべての児童(各自治体により異なる)
実施場所	小学校(校庭等)
実施日	学校がある日の平日
実施時間	始業前の2時間以内
実施日数	200日以下



## 都の 実施 状況

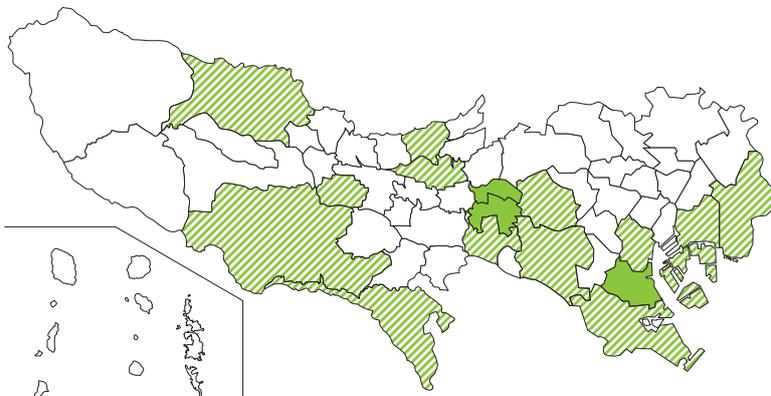
今年度、都内62自治体のうち、約3割の自治体が実施、もしくは実施に向けて検討しています。実施形態としては委託して行われている事例が多く、特にシルバー人材センターへの委託が多数を占めています。活動場所は校庭が多く、多目的室や放課後子供教室専用室なども活用されています。

令和7年度

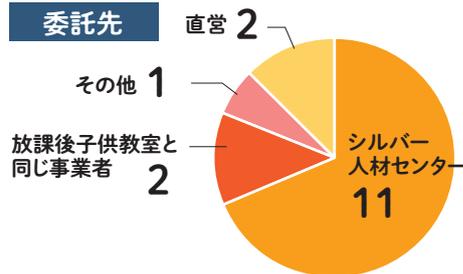
### 実施状況

(令和7年9月時点)

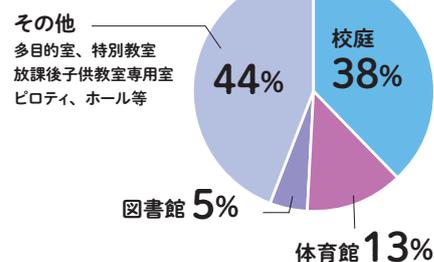
■ 全校で実施 ■ 半数未満で実施



### 委託先



### 活動場所



※2 東京都 こども未来アクション2025(令和7年1月発行)「朝の子供の居場所づくり」学校の始業前2時間を対象とし、民間事業者やNPO等を活用した朝の居場所づくりに係る経費を補助

# 朝の子供の居場所づくりの取組内容について、

取組事例  
1

港区  
モーニングスクール  
— 教育人事企画課 —

## 事業概要

- 実施校数：2校
- 開始時期：令和7年4月
- 実施頻度：授業がある日は全て
- 実施時間：7:45～8:20
- 1校あたりのスタッフ数/日：平均2名



## 事業実施のきっかけ

保育園等に預けられていた子供たちが小学生になり、保護者の出勤時間に合わせて登校するものの、登校時刻開始前のため校舎内に入れず、校舎前で待機する状況が発生していました。児童の通学時の安全確保と始業前の居場所を確保するため、モデル校2校で「モーニングスクール」を実施しました。

## 事業開始までのプロセス

試行実施開始までの期間も短い中、「どの学校で?」「誰が対応するのか?」という調整に時間がかかりましたが、働き方改革の観点から、教職員ではない人材の配置を検討し、児童と関わることのできるエデュケーション・アシスタント(会計年度任用職員)(以下「EA」)を港区負担で配置することにしました。EAの募集は区のホームページで行い、学校が面接して選定しています。事業開始までの間に、採用されたEAとモーニングスクールで行う内容、時間内の進め方、役割分担、勤務スケジュール、児童の誘導・動線について調整しました。

## 事業実施の反響・効果

児童たちは、読書や折り紙に楽しく取り組むことで、その後の学校生活も落ち着いて過ごすことができます。正門近くで児童を見送り、安心した様子で出勤される保護者の方も見られます。保護者へアンケートを実施したところ、「とてもよい」、「よい」との回答が100%でした。

学校からは、教職員の勤務時間外の活動のため、緊急時の対応が必要となった場合への不安の声がありましたが、通常は教職員の負担はなく、EAの方が責任を持って対応しているため安心していただいています。

## 今後の展望

現在、モデル校2校で試行実施していますが、令和8年度から全校展開できるように調整しています。配置人員については、学校管理となるEAではなく、外部へ委託することで学校の負担とならない運用ができるように検討しています。



## モーニングスクールの様子

港区立白金小学校

- 7:30 警備員により開錠
- 7:40 スタッフ集合 折り紙や塗り絵等の準備を行う
- 7:45 児童受入開始  
児童は直接図書館へ向かい、受付で出席のシールを貼った後指定の場所へ荷物を置く
- 7:45～8:00 自由活動時間 折り紙やお絵かき、読書等各々で自由に選択 スタッフは児童と一緒に過ごす
- 8:00 教室への移動準備開始 スタッフは忘れ物が無いか確認し児童へ声掛けを行う
- 8:00～8:20 児童が全員教室に向かったことを確認後、使用した折り紙等を片付けスタッフも退室

## 実施にかかわる

Q & A

Q 学校の開門は誰が行っていますか?  
A 警備員が開門の対応をしています。  
※実施校により異なる

Q 活動時間中の子供の怪我等の対応はどうしていますか?  
A 一次対応はモーニングスクール担当のEAが行い、その後、職員室へ連絡し、養護教諭をはじめとした教員が対応します。

# 各区市事業所管課にお聞きしました！

(令和7年9月取材)

取組事例  
2

調布市

みまモーニング  
— 教育総務課 —

## 事業概要

- 実施校数：10校
- 開始時期：令和7年5月
- 実施頻度：授業がある日は全て
- 実施時間：7:30～8:15
- 1校あたりのスタッフ数/日：平均3名



## 事業実施のきっかけ

保護者からの要望があったことなどを受け、令和6年11月に市立小学校児童の保護者と市内認可保育園5歳児クラスの保護者を対象にアンケートを実施しました。そのアンケート結果において、利用希望数の多い上位4校をモデル校として令和7年5月に事業を試行的に開始しました。

## 事業開始までのプロセス

公共施設の管理等、市の政策と連動性が高い業務の受託実績から、(一財)調布市市民サービス公社(市の監理団体、以下「公社」)へ業務委託しました。市と公社の役割分担として、市は、見守り場所の選定、事故・怪我対応、必要備品の検討、個人情報の取扱などの制度設計や人材確保の調整を行い、公社は給与支払や勤務ローテーションなどの労務管理、実際の事業を運営しています。

校長等と現地確認を行い、学校と共通認識を持ちながら見守り場所を選定するとともに、事故・怪我の発生を最大限抑制した見守り内容や事故発生時のマニュアル作成、研修の実施など、教育委員会事業として学校教職員への負担が及ばないよう、最大限考慮した制度設計を行いました。実施校の学校運営協議会などにも見守り員募集に協力していただいた結果、見守り員は現在、地域の方や、学校の会計年度任用職員や市が相互友好協力協定を締結している大学の学生など、様々な方々に御協力いただいています。

## 事業実施の反響・効果

利用している児童は、会話や手遊び、読書などをして楽しく過ごしている様子です。令和7年6月に実施した利用状況等に関する保護者アンケート※では、満足が9割を超えるなど高評価を得ており、「ひとり親家庭なので有難い」「仕事を続けることが出来る」などの感謝の声に加え、「毎日楽しみにして、朝の身支度を自分でするようになった」「学校に行きたがらなかったが、みまモーニングに行ってから教室に入ることで落ち着いてきた」など、『子供が

登校しやすくなる副次的効果』も表れています。

学校からは、開始前は教職員への負担などを心配する意見がありましたが、開始後は、大きな事故・怪我もなく、学校教育活動と分離した形で事業運営ができていること、学校への行き渋りがあった児童が「みまモーニング」後に登校することで、学校生活を落ち着いて過ごしているなど感謝の声が届いています。

※みまモーニング(朝の小1の壁対策)の利用状況等に関するアンケート調査結果(調布市ホームページ)  
<https://www.city.chofu.lg.jp/100010/p054308.html>

## 今後の展望

市内20校のうち現在10校で実施しており、今後の拡充については、順次検討していきます。



## みまモーニングの様子

調布市立第一小学校

- 7:15 見守り員集合。照明・冷暖房の点灯、見守り場所の安全確認。受付設置。
- 7:30 準備が終わり次第、児童受入開始。利用カードをもとに受付。(受付簿作成)
- 7:30～8:00 見守り時間。児童は読書やおしゃべり、タブレット端末での自習などをして過ごす。
- 8:00～8:15 忘れ物がないか確認し、受付簿による点呼を取ってから昇降口まで見送り。
- 8:15～8:30 児童全員が昇降口に向かったことを確認し、見守り場所の片付け・清掃。  
公社・教育総務課に、専用スマートフォンから「受付簿兼日時報告書」の画像を送信、  
原本は学校事務室から庁内交換便で公社に送る。

実施にかかわる

Q & A

Q 学校の開門は誰が行っていますか？

A 学校管理員(シルバー人材センター委託)が行っています。実施校については、通常午前7時30分としていた開門時間を30分早め、午前7時00分に改めました。

Q 活動時間中の子供の怪我等の対応はどうしていますか？

A 運用マニュアル内に対応資料を掲載し、見守り員の事前研修も行っています。その上で、止血・冷却等の簡易処置は見守り員が行い、首から上の怪我、発熱・嘔吐等は保護者へ連絡し、お迎えをお願いしています。対応後は報告書を作成し、児童を通じて保護者に渡す他、報告書の内容は委託業者、教育総務課、学校管理職と共有しています。

事業概要

- 実施校数：18校（令和7年12月1日現在）
- 開始時期：令和7年5月 ●実施頻度：授業がある日は全て
- 実施時間：7：30～8：00（学校により異なる）
- 1校あたりのスタッフ数／日：平均3名



事業実施のきっかけ

学校の登校時間より前に校門前で待機する児童が見られ、その安全確保が急務となっておりました。そこで、区立小学校・義務教育学校の始業開始前の時間に、学校内で子どもたちが過ごすことができる居場所を設置、また朝食支援を行うことで、子供の健やかな成長と安全で安心な社会の実現を目指すために事業を開始しました。

事業開始までのプロセス

早朝事業であり、地域（実施校の近隣）から従事できる人員を確保するため、シルバー人材センターに委託することにしました。実際に、地元町会の普段から学校と関わりのある方、御自身やお子さんが卒業生の方、現在もお孫さんが通っている方などに見守り員を担っていただいています。業務内容・範囲の整理にあたり、特に緊急時の対応については他自治体の事例を調べ、情報を共有しながら決定し、事業開始前には現地での説明会や、アレルギーや怪我への対応等の研修を実施しました。学校により、鍵の共有方法や下駄箱から居場所までの動線が異なり、居場所のある建物に下駄箱がない学校はスリッパを用意したり、居場所まで距離がある場合はトランシーバーを用意したり、細かな調整・準備が必要でした。

事業実施の反響・効果

参加児童からは「毎日行きたい」「読書を静かにできるのでうれしい」という感想、保護者からも「子供が行き慣れた学校での実施で安心」「子供に戸締りをお願いしなくてよくなり、安心して出勤できるようになった」「フルタイム勤務に戻すことができた」等の声が届

いています。

学校からも「心配したほどの混乱はなく、スムーズに実施できている」「門の前で待っている時のトラブルがなくなった」「見守り員の方々との交流の機会にもなっていてよい」と伺っています。

今後の展望

秋以降に、順次、全校展開予定です。試行3校では朝食（おにぎり・パン）の提供を11月から開始、今後、段階的に拡大していきます。

朝の児童の居場所確保事業の様子

品川区立戸越小学校

- 7：15頃 見守り員順次出勤。活動場所の確認、夏場は空調を稼働させる。
- 7：30 児童受入開始。受付し、ロッカーにランドセルを置く。
- 7：30～8：00 自由活動時間。児童は座って読書、自主学習など自由に過ごしている。
- 8：00 片付けをし、児童は自分の教室へ移動。
- 8：00～8：30 児童が全員、教室に向かったことを確認し、見守り員は掃除、記録、整理整頓をし、退室。鍵を所定の場所に返却して退勤

実施にかかわる

Q&A

Q 学校の開門は誰が行っていますか？

A 校門・昇降口付近に見守り員を配置し、参加児童が来た際に見守り員が都度内側から開閉します。

Q 活動時間中の子供の怪我等の対応はどうしていますか？

A 擦り傷等、軽傷の場合は救急セットで見守り員が処置を行います。頭を強く打った、出血多量、意識不明等の緊急対応が必要な場合は、救急車を要請と同時に区所管課に連絡し、学校管理職とも連携して対応にあたります。

都内58カ所の  
シルバー人材センターに  
運営支援等を行っている  
(公財)東京しごと財団に  
話を聞きました!



様々な形態で実施されている朝の子供の居場所づくりは、

シルバー人材センターは企業や家庭、公共団体などから高齢者にふさわしい仕事を引き受け、会員に仕事を提供しています。現在、朝の子供の居場所づくりを実施する自治体の多くで、シルバー人材センターを活用いただいています。

シルバー人材センターは高齢者が居住地域で働くことを通じて、活力ある高齢社会、地域社会づくりに貢献するとともに、健康で生きがいのある生活ができることを目指しています。会員の働き方は、臨時的かつ短期的（おおむね月10日程度以内）または軽易な業務（おおむね週20時間以内）を目安

## 事業概要

- 実施校数：5校
- 開始時期：令和7年5月
- 実施頻度：授業がある日は全て
- 実施時間：7:30～8:15
- 1校あたりのスタッフ数/日：1名

事業実施の  
きっかけ

早朝に登校せざるを得ない児童の安全な居場所を確保することを目的として市内小学校13校のうち、6校において試行実施をすることとしました。また、これまでに早朝の居場所づくりを希望する声や、校門前の道路で開門まで待機する児童の安全面に対して、改善を求める声が市教育委員会にも届いていました。

事業開始までの  
プロセス

早朝の1時間の見守り要員の確保が課題となることが想定される中、世代間交流の促進という観点からも適切と判断し、シルバー人材センターに委託することとしました。事業開始にあたり、事業実施を希望する学校を募り、実施校を決定しました。その後、各校と調整し、校庭や図書室といった実施場所や、児童の過ごし方などのルールを学校毎に決めていくとともに、万一事故が発生した際の対応について、教育委員会、学校とシルバー人材センターで共有、調整することで事業開始に向けた準備を進めてきました。

## 事業実施の反響・効果

参加児童、保護者などにアンケートを実施したところ、児童からは、安心して登校できるようになったことや、友達と遊べる時間が増えたことを喜ぶ声が上がっています。保護者からも、共働きでも安心して子供を送り出せるようになっただけでなく、生活習慣づくりに役立っているといった声が届いています。

学校からは、児童の過ごし方やどのような場所を活用するかな

どの課題はありますが、全体として登校の安全性が高まり、意義のある取組だと伺っています。

一方で、事前に利用登録していた児童がほとんど利用していない学校や、見守り要員の確保ができず、開始できない学校が1校あるなどの課題もあります。

## 今後の展望

今年度の試行的な実施による成果や課題を精査し、今後の事業展開を検討していきます。

小学校早朝見守り事業  
の様子

昭島市立拝島第三小学校

- 7:20 見守り要員出勤、準備を開始。早朝管理員が開門と東側昇降口を開錠。
- 7:30 児童受入れ開始。東側昇降口で受付。
- 7:35 図書室へ移動。
- 7:35～8:10 図書室にて見守り開始。児童は自主学習や読書をして過ごす。
- 8:10～8:15 片付けをし、各自の教室へ移動。
- 8:15～8:20 見守り要員は図書室内の忘れ物などを確認。日誌を作成、提出の上退勤。

## 実施にかかわる

## Q&amp;A

## Q 学校の開門は誰が行っていますか？

A 小中学校の休日及び平日早朝、夜間管理業務をシルバー人材センターに委託しており、早朝見守り要員とは別に在籍している管理員の業務の範疇で学校の開門等を行っています。

## Q 活動時間中の子供の怪我等の対応はどうしていますか？

A 怪我・急病時等の対応フローを整備し、軽症であれば見守り要員が救急バッグにより手当を行います。重症の場合は、見守り要員と学校及び教育委員会が連携して救急要請などの対応を行います。

## シルバー人材センターへの委託が多数を占めています。

としています。こうしたシルバー人材センターの理念や働き方にマッチするため、都の「朝の子供の居場所づくり」事業が始まる以前から、都内自治体より相談を受け、事業化に携わっていました。当時は、事業のアウトラインの組立てから、事業開始日までの導入スケジュールの策定、見守り業務の具体的な内容の検討、仕様調整、マニュアル整備、必要な物品等の準備などについて、事業所管部署と打合せを重ねながら、進めていきました。このノウハウが、今年度の朝の子供の居場所づくり事業における見守り業務の受託にも大いに活かされています。

今後もシルバー人材センターは、都内における朝の子供の居場所づくり事業の一端を、地域の元気な高齢者と共に担っていきます。

